

[トピックス-3]

笑いはヒトの魅力、大切に

堀田康雄

「地図の読めない女・話を聞けない男」・「オニババ化する女性たち」は最近話題となった本であるが、笑いも女性と男性の間で違いがあり、笑い方によって相手が受ける感じが変わり、自分自身の性格も変わる。例えば、女性は知らない男性のそばではよりけたたましく笑い、男性は笑わずに女性を観察する。笑い声を録音して、被験者に聞いてもらい、感想を聞いた。誰も魅力を感じなかったのは声のない笑い、即ち、あえぐように空気を吐き出す笑い、女性がすると特に嫌われる。鼻を鳴らしたりクスッと笑うのもよくない。単調であってもある程度の長さを持つ笑いは、女性の場合には親しみ易くセクシーだと感じられた。

女性は同性の友達という時よりも、男友達と一緒にいる時に良く笑う。知らない男性と一緒にいるときと親しい男性と一緒にいる時では、前者のほうが高い音で笑うが、後者の場合は抑えた笑いになる。逆に男性では、同性の友達という時によく笑いしかもバカ笑いが多かった。笑いはコミュニケーションの手段であり、相手とその場の状況によって変わってくる。知能の発達と共に笑いも進化してきた。最初は微笑みから始まったが、其れは他者に対して服従を含む肯定的感情から生まれたらしい。動物で時々笑っているような表情を作るものもいるが(例えば、チンパンジー) 其れは単なる従属を示しているに過ぎないらしい。

微笑みは意識的に作る事も出来るので、必ずしも誠実さのシグナルではなくなり、

嫌いな、或いは喧嘩中の相手でない限り、他人と出逢った時に先ず現れ、交流の可能性を開くために使われるように変化した。笑いにいろいろのタイプがあることから、笑いとは脳・神経系とのつながりは複雑であり、笑いを実行する為に多くのエネルギーを必要とするようになった。腹を抱えて笑った後に疲れた、と言う時があるのはその例である。女性が余り親しくない男性といる時に、けたたましく笑うのは、自分に注意をひきつけ、男性を刺激する為であり、うんと親しくなった男性の前では、けたたましく笑う事はなくなる。何れにせよ女性の大きな声での笑いは男性を奮い立たせる。コーネル大学のオーレン (Owrenn) によると女性が男性を気分良く、セックスへの希望ある状態にさせておけば、男性は結構女性の言いなりになるからであると言う。又気の置けない男同志で大声で笑うのは仲間意識に誇りを感じているからであり、仲間の連帯を強めるためであると言う。

MRIの発達で脳の活動域や休止域を知る事が出来るようになった。対人関係のより複雑な状況下での笑いとは脳の活動を医療診断画像解析技術でしらべる研究が進むであろうし、いろいろな交渉、愛情表現での嘘や心の動揺を知ることも出来るようになるであろう。笑いから本心を引き出すポータブル感情測定器が生まれるかもしれない。

ヒトの感情表現の中で大変複雑と言われる笑いを定性的定量的に調べる事が出来れば、犯罪防止、再犯防止にも役立ち、社会や家庭でのQOLを高めるのに役立つかも

堀田康雄 新潟医療福祉大学 健康栄養学科

[連絡先] 〒950-3198 新潟市島見町1398番地
TEL: 025-257-4423
E-mail: hottta@nuhw.ac.jp

知れない。他方、総てが明るみになることは、QOLを低下させるかもしれない。文明や科学技術の進歩と心や哲学との結びつきやバランスを考える時かもしれない。